

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「地域の一員として」「安全で穏やか」「生きがい」を基本に有する能力に応じて自立した日常生活が送れるように支援することを明示している。	○ 日常生活の中で地域との関わりを深めて行きたいと考えている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有を図るべく毎朝の申し送りの際に職員全員で確認している。また日常のさまざまな場面で理念に添って行われているか念頭においている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者、家族には契約時、または折あるごとに説明している。事業所内にも見やすいように理念を掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の一員として町内会に加入し地域の各行事などにも参加している。また民生委員、老人クラブ、近くの商店、地域婦人部のボランティアなどホームの行事を通じて交流を深めている。介護実習生の受け入れも行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでいる。第三者の視点で評価していただきその結果を基に今後の改善計画につなげていく。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に自己評価、外部評価の説明、結果報告をしている。それに対する意見、助言をいただきながら今後の改善策を検討している。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは運営上のこと、利用者の個々の事情やその対応について相談している。自己評価、外部評価の結果についても提出、報告を行っている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などに参加していて 概ね理解している。利用者、家族で必要があれば情報提供などの支援をして行きたいと考えている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については外部研修も受けており理解している。日々のサービスにおいても問題がないか職員間で確認しあっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理解				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族の意見、要望を受け十分な説明を行い理解した上で契約を行っている。退居に際しても十分な説明を行い納得した上で解約となっている。退居先の確保や情報提供も十分にしている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中から利用者の意見や不満を感じとるように心がけている。また運営推進会議などを通じて家族の方から出された意見、苦情を検討しこれからの事業所運営に役立てていけると考えている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回の通信に担当者より利用者の近況を伝える欄を設けている。金銭管理に関しては会計係が個々の出納帳を作成し定期的に残金や領収書を家族に確認をしていただいている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業者内に苦情受付窓口を明示している。家族から出された意見は真摯に受け止め、話し合いの機会をもち納得のいく形で日々の介護に反映させていくようにしている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れ決定については全体会議に図り職員の意見を聞いている。職員の意見は決定に反映されている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜間のケア、緊急に要する受診、職員の急な休みなど必要に応じた職員の確保はできている。柔軟に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、配置換えはあまり行っていない。ユニット内での担当の変更に関しては細部に渡って引継ぎを行い、利用者に影響を及ぼさないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は個々の経験や力量に応じた研修（認知症介護、その他）に参加している。研修後は報告書の提出と伝達講習も行っている。また不定期であるが内部研修も行っている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者同志の交流会、勉強会を通じて情報交換を行っている。またお互いの施設訪問で得ることも多く参考にさせていただいている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	通常から働きやすい環境づくりを心がけている。勤務も本人の希望をとり入れ優先させている。休憩時間、休憩場所も確保している。今年から個人面談も実施し本人の悩みや要望を聞きストレスの解消につなげていきたいと考えている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の日々の勤務状況は把握している。労働条件は基準法に基づく就業規則によって守られている。数ヶ月前より保有資格、得意分野を生かせるべく一部の仕事を固定化するなど適材適所を念頭に配置換えをしてみている。健康診断は年に1回全職員を対象に実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用希望者、家族と面談し要望や不安に思っていること困っていることを伺いながらどのような支援を求めているのかを把握するようにしている。また相談を受ける際は話しやすい信頼できると思ってもらえるような対応に努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が何を求めているか、そして何が必要であるかを見極めその方に合った対応に努めている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学をしていただき安心して納得した上で利用していただけるようにしている。どうしても不安な方には何日か通って昼食を一緒にとるなど慣れさせていただくこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に買物に出かけたり食事をつくったり、また行事の準備を一緒にするなど生活を共にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時電話などで話し合う時間を出来るだけつくるようにしている。互いに情報交換をし思いを共有し共に支えていくという関係づくりに努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月に1回は面会できるように計らっている。行事などには家族にも参加していただくよう毎回働きかけを行っている。よりよい家族関係が築いていけるよう支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が入所前に関わってきた人間関係を大切にし入所後も交流が継続できるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で仲のよいグループができている。グループに加われない利用者に対しては孤立をしないように職員が支えていきながらよりよい人間関係作りに努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も何かあったら相談に応じる姿勢を利用者、家族には示している。実際相談を受け必要に応じて関わることもある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の情報や本人からの聞き取りにより本人の意志や思いを把握している。本人からの情報が得られない時は家族、関係者から情報をいただいている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から生活歴などある程度の情報は得ている。またこれまで関わってきたサービス事業所からもできる限りの情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で一人ひとりの行動、言動を観察、記録していくことでその方の有する力を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見、要望をよく聞き可能な限り希望に添えるように努めている。介護計画は全職員で意見を交換し十分話し合って作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間は6ヵ月としているが、利用者の身体状況の変化などがあれば随時見直しを行っている。その際は家族はもとより主治医も同席し話し合いが行われることもある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作成し日常生活の様子や身体状況など記録している。情報は共有し実際の介護に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の事情、状況に応じて受診の介助、買物、外出の支援、また美容院や訪問歯科など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、地域ボランティアの協力を得ている。また必要に応じて警察（駐在所）、消防署の協力を得ながら支援をしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所状況や退所後のサービス利用など必要に応じて他事業所のケアマネジャーと連携しながら支援を行っている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	退所後の利用者を長期的にケアしていくために地域包括支援センターや民生委員等に協力をお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医に定期受診をしているが体調の変化、緊急の場合は家族の承諾を得て他の医療機関を受診できるようにしている。受診結果、病状については報告し家族との共有が図られている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と相談しながら専門医の受診を行っている。認知症の専門医とも連携がとれている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の状態を知る看護師との情報交換や相談をしながら日々の体調管理を行っている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と情報交換し早期の退院を図ると共に退院後のことも含めて家族と話し合い、安心して入院生活ができるように努めている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を聞き、かかりつけ医とも相談しながら方針を考えていく。急変時の対応についても利用者家族、医療機関と話し合いを重ね意志の統一を図っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応していない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入・退所に際しては家族および本人に関わったケア関係者間の情報交換を密に行いダメージを最小限に止めるように努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替え、オムツ交換の際には個室で行うなどプライバシーには配慮している。また声がけや対応についてもプライドを傷つけないように注意している。職員は個人情報の保護について理解している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	気に入った洋服選びや飲み物（コーヒー、紅茶、ジュース）など自分で選択できるような場面づくりをしできるだけ本人の意思に添った生活ができるように支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事にすぐく時間をかけたり、日に何度も散歩に出る利用者に対しても危険が伴わないことであれば本人のペース、希望を大切にできる限り柔軟な支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服は本人に選んでいただいたり外出の時は化粧をするなどの支援をしている。時にチグハグな服装の時もありさりげなく直すこともある。美容院など希望される場合は対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はできるだけ利用者の好みを取り入れている。また個々の苦手なものは把握している。可能な限り利用者と一緒に食事を摂りながら見守りしている。盛り付けなどを手伝ってもらっている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品は把握している。他利用者と本人の健康に配慮しながら可能な限り提供するように支援している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の行動パターンはだいたい把握しておりそれぞれに対応している。失禁時の対応はプライバシーに配慮している。	○	ポータブルトイレを外すなど自立に向けた支援に取り組んでいる。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間帯は業務の都合上決められている。夏期のシャワー浴に関しては随時対応できるようにしている。	○	随時入浴できるようにするのが理想であるが利用者の安全と限られた人員配置の面で実施できない状態にある。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後30分位休息をとる場合が多いが本人にまかせている。夜間の安眠に関しては個々に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力量、得意なものは把握している。それぞれ花の水やり、食事の盛り付け、カーテンの開閉など役割をもっている。また好きな散歩や相撲の星取りなど楽しめるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の際は出来る限り自分で財布からお金を支払うように少額の金銭管理はしていただいている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出るのは日課になっている。また近くのスーパーへ買物に行ったり公園に行くなど日常的に支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	リングもぎ、レストランでの食事、または少人数でドライブに出かけるなど可能な限り外出する機会をつくり支援している。	○	本人の行きたい場所は家族の協力が不可欠であることが多い。更に家族への働きかけをして行きたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は殆どないが電話は自由にかけられるようにしている。ひとりでかけられない場合は相手方につなぐなどの支援を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。面会時間は決められているが事情のある場合は柔軟に対応している。家族等からの宿泊の希望にも応じている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修の実施などにより理解している。身体拘束をしないケアを実施している。念のため同意書は用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。ドアを開閉するとチャイムが鳴るようになっている。現在外出傾向は見られなくなっている。今後も鍵をかけないケアに取り組んでいく。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず利用者の所在を常に視野に入れ見守り安全確保に努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品及び刃物など危険物となりうるものに関しては鍵のついた保管場所に置くなど事故防止に努めている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況を見極め日常のさまざまな場面においてあらゆることを想定し注意を怠らず事故防止に努めている。ヒヤリハット、事故報告書の様式は整備されている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が応急手当や救急救命の研修を受講している。緊急時マニュアルも作成されている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を消防署の協力を得ながら年2回定期的に行っている。災害に備えて必要な食料、その他の物品も用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	施設内外において起こりうるリスクについてそれぞれの家族に説明している。状況の変化に伴い対応策の見直しも行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、一人ひとりの健康面、精神面について状況把握に努めている。異変が認められた場合は医師、家族と連携をとりながら適切な対応に心がけている。記録、申し送りにより職員間で情報を共有している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の管理、服薬確認を行っている。服用している薬の内容、副作用についても職員全員が確認できるようにファイルしている。状態に変化のある場合は医師と連携をとりながら処方の見直しもされている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や食材など便秘対策に取り組んでいる。また、毎朝排便チェックを行い改善されない場合は医師の指導を受けながら下剤を使用することもある。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯洗浄、消毒、うがいにより口腔の清潔保持に努めている。声がけ、一部介助など個々の状態に合わせて対応している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は系列事業所の栄養士が作成している。食事は一人ひとりの摂取状態に合わせ、粥、キザミなど対応している。摂取量は記録し把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防マニュアルに基づいて対応している。うがいや手洗い、必要に応じて薬品による消毒を行っている。家族、面会者にも情報を提供している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は塩素系の薬品により毎日消毒している。調理時も手袋をするなど衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口には鉢植えの花を置いたり、玄関はもちろん前庭にも日暮れと共に明るくなるように照明などに配慮している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食道、居室、台所などは一般家庭のような雰囲気づくりをしている。採光はカーテンで調整している。テレビの音量には高すぎないように気をつけている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々にソファを置き、庭にはベンチを置くなどして休憩できるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居する前から愛用している調度品など持っ てくれるように家族に働きかけはしているが持 てくることは少ない。居室は家族の写真を飾る など落ち着けるように配慮している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがな いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	気になる臭いがないように換気には気をつけ ている。また温度、湿度の調節はこまめに行 っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	安全に移動できるように玄関、トイレ、廊下 などに手すりを設置している。入浴時もす べり止めマットを使用するなど安全確保に 努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよう に工夫している	ゴミ箱、洗濯物を入れるカゴ、掃除用具 などは決められた場所に置きあまり変 更しないようにしている。また利用者の 状況に合わせ部屋に目印をつけるなど 工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動で きるように活かしている	敷地が広いので中庭に花壇をつくり周 囲には菜園をつくっている。野菜の収 穫や散歩などそれぞれに楽しめるよう に工夫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
職員は、生き活きと働けている	① <u>ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① <u>ほぼ全ての家族等が</u> ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者が自分の家で家族と過ごしているような、自然体で過ごせるような環境づくりを目指している。
- ・家族との信頼関係を築き、情報交換をしながら家族と職員が一緒になって利用者を支えていきたいと考えている。